

令和7年度第1回瑞穂町地域公共交通会議

1. 開催概要

日 時：令和7年6月2日（月）9：30～10：30

会 場：瑞穂町役場 1 階ホール

委員：

No	所属	役職	委員氏名	出席状況
1	瑞穂町	副町長	栗原 裕之 ★	出席
2	日本大学 理工学部 土木工学科	教授	大沢 昌玄 ☆	出席
3	瑞穂町寿クラブ連合会	会長	小野 芳久	出席
4	瑞穂町福祉作業所さくら	施設長	戸村 仁郎	欠席
5	公募（町内在住）		小暮 彰	出席（Web）
6	公募（町内在住）		徳永 道子	出席
7	立川バス株式会社	運輸部計画課長	佐藤 祐浩	出席
8	西武バス株式会社	計画部計画課長	秦野 凌	欠席
9	東京都交通局	自動車部計画課長	井上 清一	欠席（代理：横山氏）
10	横川観光株式会社	代表取締役社長	山口 和彦	出席
11	武州交通興業株式会社	事業部部长	濱田 興紀	出席（Web）
12	一般社団法人東京バス協会	乗合業務部長	富樫 秀樹	出席
13	東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社	企画部長	宇野 弘之	欠席 （代理：塚本氏）
14	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	首席運輸企画専門官 （総務企画担当）	中山 俊夫	出席
15	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	首席運輸企画専門官 （輸送担当）	小林 聡	出席（Web）
16	立川バス労働組合	執行委員長	土岐 雅人	出席
17	国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所	計画課長	中嶋 豊	欠席
18	東京都 都市整備局	都市基盤部交通企画課 地域公共交通担当課長	吉川 昌孝	欠席
19	東京都 西多摩建設事務所	管理課長	犬竹 幹人	欠席
20	福生警察署	交通課長	菅原 雄二	出席

★：会長 ☆：副会長

傍聴人：11 人

次 第

1 開会

2 委員交代報告

3 議事

- (1) 瑞穂町コミュニティバス運行状況の報告について
- (2) 瑞穂町デマンド交通実証実験運行状況の報告について
- (3) 瑞穂町デマンド交通利用者アンケートの結果の報告について
- (4) 瑞穂町デマンド交通実証実験の評価について
- (5) その他

4 閉会

2. 議事録

委員交代報告

- ・東京都交通局より、若田氏に代わり井上委員が新たに就任した。
- ・国土交通省関東地方整備局東京運輸支局より、佐藤氏に代わり小林氏が新たに就任した。
- ・国土交通省関東地方整備局相武国道事務所より、古川氏に代わり中嶋委員が新たに就任した。
- ・東京都西多摩建設事務所より、高橋氏に代わり犬竹委員が新たに就任した。
- ・東京都都市整備局より、武山氏に代わり吉川委員が新たに就任した。

議事

(1) 瑞穂町コミュニティバス運行状況の報告について

- ・令和7年3月までの瑞穂町コミュニティバスの運行状況について、事務局より報告を行った。

【栗原会長】

コミュニティバスの運行状況を報告させていただいたが、これについて何かご質問、ご意見はあるだろうか。コミュニティバスはコースを変更して、2コースを減らすという形で運行したわけであるが、利用も伸びているかなということと、デマンド交通の運行が影響を与えるかというところでは、今のところ影響がない、というようなことである。

(2) 瑞穂町デマンド交通実証実験運行状況の報告について

- ・令和7年3月までの瑞穂町デマンド交通実証実験の運行状況について、事務局より報告を行った。

☆ (00:14:22) ☆

【栗原会長】

デマンド交通の実証実験の報告について説明いただいたが、これについて、何かご意見、ご質問はあるだろうか。

【徳永委員】

石畑下集会所というのは、何か施設があるのか。この集会所はどの辺りにあるのか。

【事務局】

場所としては住宅地の中である。第五小学校の入口付近である。

【徳永委員】

ここで何かイベントなどがよくあるのか。

【事務局】

乗車されている方を見ると、お近くにお住まいの方によく利用いただいているという状況である。

【小野委員】

ミズカルの近くか。

【事務局】

そうである。

(3) 瑞穂町デマンド交通利用者アンケートの結果の報告について

- ・瑞穂町デマンド交通実証実験の運行状況について、事務局より報告を行った。

☆ (00:23:09) ☆

【栗原会長】

現在デマンド交通を利用している方々のアンケート結果ということで報告をさせていただいた。これについて、何かご意見、ご質問等はあるか。

【小野委員】

今のアンケートで出た結果に対して、どういう対応をするのか。「まだ使う予定はないが、将来への備えとして」、「現金で支払うのに手間がかかる」、「曜日設定について」などについて、それをどう解決していくかが、デマンド交通の利用率改善に一番早く効くのかなと思っている。その辺はどう考えるのか。

【栗原会長】

今後の対応については、議題の（４）でお話しする。

【小野委員】

承知した。

【栗原会長】

今回はデマンド交通の対象者が増えたとはいえども、まだ 200 名弱。200 人にも行っていないということで、母数自体そんなに大きなものではない。とにかく母数を増やさなければならない。先週、寿クラブ連合会の総会の際にも「登録しよう」という PR をさせていただいた。そういう形で、まずは母数を増やしていかないといけないということと、アンケート結果を見ると、「今は自分で運転できるが、それがあと何年可能かな」というところで不安を感じてらっしゃる方々が非常に多いということである。これはまず、登録をしていただくことと、一度使ってみて、「これなら」という評価をいただければということで、次の「評価」、「今後どうしていくか」という議論をしていきたい。

アンケート結果については、何かご意見あるだろうか。

【大沢副会長】

15 ページの Q 6 のグラフで、最も多い回答は「バスなど他の公共交通手段が不便だから」が 44.4% なのだが、資料の上部には「登録理由は『まだ使う予定はないが、将来への備えとして』が 53.5% で最も高い」と記載されている。これは「バスなど他の公共交通手段が不便だから」の 44.4 パーセントよりも高い回答項目の 53.5% がある、という理解でよろしいか。

【事務局（委託事業者）】

そうなる。今、この中から外れていて失礼した。53.5% の「まだ使う予定はないが、将来への備えとして」という回答が、実際には Q 6 の一番上にいる、という形になっている。

【大沢副会長】

わかった。棒グラフから抜けていたということか。

【事務局（委託事業者）】

そうである。失礼した。

（４） 瑞穂町デマンド交通実証実験の評価について

- ・ 瑞穂町デマンド交通実証実験の評価および実証実験の 1 年間の延長の方針について、事務局より報告を行った。

【栗原会長】

評価については「一定の利用者がいる」ということで、「今回のこれだけで決断を下すのは早いのではないか」、ということをご提案させていただくということ。今後の運行計画、要するに東西で分けていたのは果たしてどうなのか、ということである。改善をしてみて、この実証実験、デマンドという運行形態の是非を決めなければならないのでなかろうか、というのが町側のご提案である。それについて、委員の皆様のご意見を頂戴できればと思う。いかがだろうか。

【徳永委員】

現状、私が利用した限りでは行きも帰りもスムーズだった。そういう状況を見ると、東西関係なく毎日自由に全域利用できる、それをぜひ実施していただいて、今、実証実験中であるから、それでどんな結果が出るかはやってみないと分からないということで進めていただきたい。

【栗原会長】

ありがとう。他はどうか。

【小野委員】

今、東西の区切りを取り払うという話もあったが、それをやった時に1台で対応できるかという問題があると思う。使える曜日が規定されているので取り払うのが一番という話は私も聞いている。今後の話で、例えば、前日までの予約を東西で分けて、当日はフリーにする。「空いている時間帯だったら自由に利用できる」というのも一つの手かなと思う。

それから「現金決済が大変だ」という声があった。今はバスも電車もほとんどの交通機関がSuicaなので乗れるから、そういうシステムを入れた時に、経費はどうなるのか。そういうところもあると思う。

それから、一番の問題である「登録者数が少ない」という話なのだが、「基本的には登録しなければ乗れない」という壁がある。また最初のアンケートであったのだが、「今は使わないけど、将来使う」という意見について。今は100歳時代とよく言われるのだが、80代で一回、ラインを引かれる。80代から次の世代の、100歳までの世代ということになる。だから、80代まではなんとかする。自分で移動手段ができる。だが、80代を超えると、こういう公共交通に頼らないと移動手段がなくなる。免許証を返納した人に話を聞くと、「移動エリアがものすごく狭くなった」という。80代の人はまだいいのだが、80代以下の人がいざという時にこういう公共交通がなくなった時に、もっと移動エリアが狭くなって、引きこもりの高齢者が増えていく。実証実験の段階ではあるが、どういう結論を出すかは、もう少し続けるという話になっているので、我々の老人クラブとしても、会員の増強、登録者を増やすために色々お話するので、ぜひ続ける方向で進めていただきたい。アンケートも確かに、まだ分母が少ないのは私も分かっている。これが1,000人ぐらいになればもっと正確な数字が出ると思う。少しでもそうなるように、我々も努力するので、よろしく願います。

【事務局】

ただいま、3点ご質疑いただいたと思う。まず一点目、東西の分けについてであるが、「前日までの予約を東西で分けて、当日はフリーというやり方もあるのではないかな」ということだが、まず、今回東西に分けるということをキャンペーン期間限定で実施することで、どのような影響があるかを見極めさせていただけたらと思う。ご提案いただいたようなやり方一つの方法ではあるが、できるだけオペレーションはシンプルであるほうが望ましいと思うので、どのようなやり方がよいのかについては、また今後議論させていただければと思う。

二点目、現金決済についてだが、今回の利用促進に向けた取り組みの内容には入っていないのだが、引き続きコスト面の問題やオペレーション上の課題などについては検討を進めていきたいと考えている。

三点目、「登録者数を増やし、引き続き、運行を続けてほしい」という意見であるが、こちらについては、今年度に入ってから40名ほど登録者が増えている状況である。それには、会議に参画いただいている委員の皆様からのご助力があったと承知している。誠にありがとう。デマンド交通、今回は非常に収支率が厳しいものがあったが、一方でコミュニティバスよりは経費が抑えられているという面もある。デマンド交通というのは、コミュニティバスよりも、よりコンパクトな交通モードであり、そういう意味では乗合の人数にも限りがあるため、フルに稼働したとしても収支率は、私どものほうで仮に試算したものでは、「30分に1回走らせて、毎回8人乗った」としても、収支率6割ぐらいが限度かなと考えているところである。そういう意味では、もともと収支事業としては非常に厳しいものではあるが、一方で、「今のままの利用状況だと厳しい」というところもある。これから先、運転できなくなった時の保険のように扱われているところも見受けられるが、公共交通はそういうことをしているとなくなってしまう。「地域の方で、どのように公共交通を支えていけるか」というところも、これから考え

ていかなければいけないと考えている。これからさらに高齢化が進んでいった時にどうなるかというのは、まさに小野委員のおっしゃるとおりではあるが、そういったところで、まず登録のハードルを下げる、第1回目の利用のハードルを下げるということで、取り組みの中で利用のモデルケースを提示していくといったことをこれからやろうとしているところである。

そういったことで、収支率としては100%を超えることはないのだが、「デマンド交通は続けていかなきゃいけない」という考え方について、今後、地域公共交通計画を策定していく中でも整理していきたい、というふうに考えている。

【小林委員】

議題（2）とも関連するが、実証運行するにあたり、目標としている収支率や乗車人数、あるいは登録者数は定めているのか。

【栗原会長】

デマンド交通も、ということか。

【小林委員】

デマンド交通についてである。

【事務局】

具体的にこのぐらい、というところをはっきり定めたものはないが、デマンド交通の実証実験運行を開始する際の目安として、町内の70歳以上人口、資料の20ページでは7,236人と書いているが、この概ね10%程度が登録してくれるところを目指していこう、ということでまず始めている。また、収支率に関しても、廃止したコミュニティバスの2コース、これを下回らないようにまずはやっていこうということで、そこからスタートしていて、今後またどのような目標が望ましいかといったところは、利用の推移を踏まえて、改めて設定したいと考えている。

【小林委員】

承知した。

【小暮委員】

今、報告のデマンド交通のところで、利用者の方が現金支払いのことで手間が掛かるという話をしていた。かなり難しいと思うが、「一つの決済手段として二次元コードによるものを検討」とあるが、これは予算としてはどのくらい掛かるものなのか。

もう一つは、例えば、瑞穂町の周りの議員の方が質疑応答であるとか、色んなことを話し合うわけだが、近隣地区でデマンド交通についての情報交換であるとか、そういった中身で相談するような機会はあるのか。

【事務局】

まず、二次元コードの検討についてであるが、二次元コード等の導入に対するコストについては町の方で研究している段階である。今後、現金決済以外の手段を検討していく中で、コスト等についても明らかにしていきたいと考えている。

二点目についてだが、公共交通に関する意見交換会を先日も実施したところである。あれは昨年度に一度実施したが、デマンド交通の内容に関しての意見交換や意見聴取等も、今後のデマンド交通の実証実験運行の状況を踏まえて、適切な時期に開催できればと考えている。

【小暮委員】

承知した。今後また、そういう機会があるということか。

【事務局】

地域の方と集まって意見を聴取する場というのは、今後も設けていきたいと考えている。

【小暮委員】

了解した。

【徳永委員】

今後の取り組みについて、「出張説明会の実施」ということで、介護事業所等で利用者をお店に連れていったり、介護の方が歩いて連れて行ったり、ほぼ車椅子などに乗せて歩いて連れて行くことが多い。そういう時に、手帳など持っているで半額で利用できるの、デマンド交通の利用が役立つのではと考えている。そうすると、介護サービスの事業所にそういう働き掛けをすると、ヘッドに立つ人の判断で、「ただ歩くだけでなく、デマンド交通を利用しながら」という、そういう方法もあるのではないかと考えたが、どうか。

【事務局】

今、徳永委員のおっしゃった介護事業者等との連携であるが、出張説明については、これから福祉分野の施策などとも連携して、さらなる利用を広げていくための説明は福祉部門の方とも連携しながら進めていきたいと考えている。

車椅子については、バリアフリー対応の車両になっていないので、あらゆるパターンに対応しているわけではないが、その中でも拾える部分と拾えない部分の整理を図って、役割分担を果たしていけるようにできれば、と考えている。

【山口委員】

実際に運行させていただいている横川観光である。今は毎日運転手さんが帰ってきて、「今日は何人だった」「よかったね」という話をしている。東西の壁や、年齢による差、あと、もう一つ意見で出た、「自分の行きたい停留所がない」「近くに停留所がない」という声があるので、その停留所の見直しのようなことも、今後必要になると思っている。

また、今、実際にあきる野市さんでチョイソコを運行しているのだが、徐々に徐々に利用が増えてきたというところがある。実際にはやっぱり会員数が増えないと利用が増えるということではなく、「ドーンといきなり増える」ということは見られなかったような気がする。

あと、瑞穂町さんのチョイソコの施策は、羽村市や福生市、あきる野市の議員さんも「今後、西多摩にもこういうものが必要なんじゃないか」みたいな話も出ていて、瑞穂町の成り行きに非常に注目しているの、よい形になってくれればいいと思っている。

【栗原会長】

ありがとう。横川観光さんには、運行の面で大変ご協力いただいている。他はどうか。

【小野委員】

「チョイソコ通信」の発送について聞きたい。二点目の、「現在の収支率等や、利用状況が改善しない場合運行が継続できない可能性があること」とあるが、これを「チョイソコ通信」に載せてよいのかどうか。お役所的な発想で「改善しないと継続できない」というのは、考え方としてちょっと違うのではないか。これはまだ我々の努力が足りないわけから利用者数が増えていないわけで、これを「チョイソコ通信」に記載するというのは、目的と少し違うのではと思う。

【栗原会長】

今の小野委員の意見は、行政が他人事ではないが、脅しのように取られる可能性もあると思う。しかし、現実を知っていただく必要もある。最後に「このままだとなくなるかもしれないぞ」という文言を付けるかどうかというのは、まだ1年や2年でそういう文言を付けるかどうかの判断はある。

【小野委員】

そう思う。

【栗原会長】

ただ、「現状がこうである」というのを、「実際には年間で千何百万円掛かっている。利用いただいて

ありがたいが、収入はこのぐらいである」ということは、公共財であるから、事実をちゃんとお知らせするという意味で、そういうことを、使う人、使わない人にも分かってもらえなければいけない。そういうことは、的確にお知らせをしなくてはならない。ただし、最後のコメントをいつそういうふうに入れるのかということとは考えないといけない。

【小野委員】

まだ早いと思う。

【栗原会長】

毎号入れてしまったらまずいので、それはどうかと思うが。ただし、事実をお知らせするということは必要だろうし、使っている人も、使わない人も、事実としてこういうことを知っていただくというのは必要なのかなと思う。

【事務局】

役所として脅しているつもりはない。ただ、税金を投入している手前、ずっと非効率なことをするわけにはいかないという側面も確かにある。一方で、小野委員のおっしゃることもそのとおりである。役所もこれから、まだまだ努力していかなければならないと思うが、一方で利用者側も、自分の生活に関わることとして、公共交通の問題に興味を持っていただいて、一緒に協力しながら盛り立てていかないと、役所側の努力だけではどうにもできない部分も出てくるのかなと考えている。そういったところで、表現の仕方は慎重に検討させていただく。

【小野委員】

よろしくお願いします。

【大沢副会長】

確かに「脅してはいないか」という表現もあるかもしれないが、アンケート結果でも、53%が「登録しているけどまだ利用しない」となっている。「将来の備えだ」という気持ちは100%分かるのだが、一方で、将来の備えで2年後に使うと言っても、その2年間に収支が悪ければ、おそらく廃止という結論に、この会議としたら至らざるを得なくなってしまうかもしれない。そのため、「使いたいな」という気持ちがある方は、なるべく早く使ってほしい。この後少しお話ししようかなと思っていたのだが、先ほど、目標が「登録者数のアップ」と言っていた。確かに登録者数は伸びている。しかし、それは「登録者＝利用者」という強い前提があったからかと思う。「登録したのは将来の備えだ」というのは、当初の想定とは違っていると思うので、そういった意味で、やっぱり使っていただきたいと。そうでないと、使いたい時にない、「親孝行したい時に親はいない」というのと同じようになってしまう可能性がある。なので、それでそういった文言を入れたのかなと思う。登録者数増のキャンペーンもいいが、今後は利用増に向けたキャンペーンをやっていたほうが良いのではと思った。

【徳永委員】

利用者数を増やすというロコミ作戦や広報活動、その役目を担っているのは小野さんと私である。小野さんは老人会などでヘッドにいる。私はスポーツサークル、ミニテニスやそういうところで遊んでいるのだが、まだ年齢的には、ちょうど団塊の世代に達したぐらいの方とかが一番上のほうで、デマンド交通のお話はしていても、中々、まだ自分のこととして捉えていない。ぜひ、私たちの役目として、利用促進するように、世間話の間に挟んでいきたいと思う。

【栗原会長】

登録したら、一回はお試しで乗ってくれということ。他はどうか。よろしいだろうか。

それでは、本日ご議論いただきたいこと、22ページのところで、真ん中の赤のところ、東西の区分けを外して、という。ただし、期間限定でやってみたらどうだろうというのを、委員の皆様にご提案させていただき、ご了承いただければ、関東運輸局のほうに届け出たい。

【大沢副会長】

今回、利用率は伸びていないかもしれないが、17 ページのアンケートで「外出率が増えた」という結果が出ている。これをもって評価としてもよいのではないかと考えている。もしこれがなければ、さっきお話いただいたように家から出ていなかった。これがあつたおかげで家から出て行ったことによって、例えば、よく「一日一歩歩くと医療費が 0.061 円安くなる」という話があるが、その結果、健康になるそうすると、たった 18.4%でも外出頻度が増えたというのは、効果が大きいのではと思っている。他の自治体などでももしこういうのをやって外出頻度が増えたというデータがあれば、それと比べて瑞穂町の 18.4%が高いのであれば、すごく頑張っているという話になると思う。この「外出した人が増えた」という結果はもっと評価してもよいのではないか。町全体としてハッピーになる可能性があると思うので、そこは評価してもよいのかなと思う。

【栗原会長】

ありがとう。デマンドの評価について、他はどうか。オンラインの方も何かあればお願いします。

それでは、本日の結論だが、22 ページ、まずは一点目としては 9 月いっぱいまでの実証実験という形であるが、まだこれで判断を下すのは少し早いということで延長したいと思うが、委員の皆様はよろしいだろうか。

【委員一同】

異議なし。

【栗原会長】

それと、中ほどに書いてある、運行日の赤書きで示しているが、今は東西という形で使うことができる人が分かれているが、これを全域で使えるようなことを 10 月から。ただし、これは無制限というわけにはいかない。実証実験の延長は手続きが必要なのだが、町内の区域分けの撤廃は会議でご了解いただければ可能であり、できるだけ速やかな形で持っていきたい。ただし、キャンペーンと書いてあるが、これはある程度の期間を決めた上で実証していきたい。先ほども言いかけたが、実証実験の継続となると、関東運輸局にて行政上の手続きがあるので、本日の会議で了承が得られれば、さっそく手続きに入る必要がある。また、その他にも事務的な調整があるので、よろしいだろうか。

【委員一同】

異議なし。

【栗原会長】

では、異議ないようなので、採用を進めていきたいと思う。

最後に「その他」であるが、事務局から何かあるか。

(5) その他

【事務局】

24 ページを見てほしい。今後のスケジュールであるが、第二回会議を 8 月に予定している。利用実績、コミュニティバスアンケート結果の報告、地域公共交通計画に関する施策、事業についてご協議いただく予定である。議会の 9 月定例会では、本日お認めいただいたデマンド交通の実証実験延長について、補正予算の計上を予定している。第三回以降の会議については記載のとおり予定している。

【栗原会長】

ということで、8 月に第二回目ということだが、いよいよ、この会議はこれまで、まずスタートはコミュニティバスの導入の話であり、それから、それをカバーするためにデマンド交通ということで、この二つの運行形態について主にご議論いただくということだったが、いよいよ令和 7 年 8 月からは地域公共交通計画というもののご議論をいただく形になる。委員の皆様は大変お忙しい中と思うが、町長も申し上げたが、「今後の公共交通網をどう考えるか」というところでご議論、様々なご意見をいただければと思うので、よろしく願います。

それでは、第一回の瑞穂町公共交通会議を、以上をもって終了とさせていただきます。

以上